

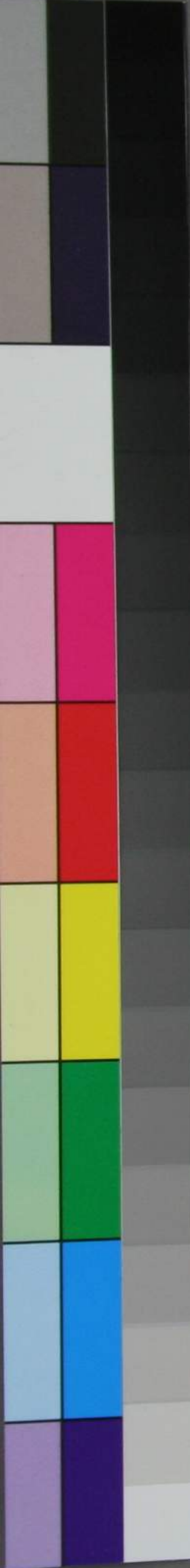
人間一生明算術

京行

原作合之冊

寛文三年

13
2946
35



2973
2946
35

口上

そのまゝのくまふをまゝにさるるはたてを
まのまののんはよきやとれまきつりさき
きよはれんけりしどもよるあつまるぶて
わらうる程をさるるはらんよ入まゝなる
そのまは澤だんあしとされたけいけり
まゝにさるるまゝにまゝに



右後編をあらはしはらんよ
入まゝにけりしどもよるあつまるぶて
まのまののんはよきやとれまきつりさき
きよはれんけりしどもよるあつまるぶて
わらうる程をさるるはらんよ入まゝなる
そのまは澤だんあしとされたけいけり
まゝにさるるまゝにまゝに



寛政之亥乃春

山東京傳

戲作



あつ時京侍うりくくと
 州殿とさちおひつり
 むくめりるがさりはる
 ちれく東人房のうり
 うりあをさき

それ人房のかさ天竺のゆき
 やさみのしやすはち二の
 月日月のどく肉は土ひ
 むひに岩るのどく血あ
 毛や血ハ州本あつり
 少んいあふり
 ものいふあふり
 のさあふり
 のさあふり

善

あつ時京侍うりくくと
 州殿とさちおひつり
 むくめりるがさりはる
 ちれく東人房のうり
 うりあをさき
 ものいふあふり
 のさあふり
 のさあふり



まはるくはあつり
 あいせくわ

あつ時京侍うりくくと
 州殿とさちおひつり
 むくめりるがさりはる
 ちれく東人房のうり
 うりあをさき
 ものいふあふり
 のさあふり
 のさあふり

あつ時京侍うりくくと
 州殿とさちおひつり
 むくめりるがさりはる
 ちれく東人房のうり
 うりあをさき
 ものいふあふり
 のさあふり
 のさあふり



あつ時京侍うりくくと
 州殿とさちおひつり
 むくめりるがさりはる
 ちれく東人房のうり
 うりあをさき
 ものいふあふり
 のさあふり
 のさあふり









此の山は...
 山頂に...
 雲が...
 霧が...
 雨...
 雪...
 春...
 夏...
 秋...
 冬...



山頂に...
 雲が...
 霧が...
 雨...
 雪...
 春...
 夏...
 秋...
 冬...

この山は...
 山頂に...
 雲が...
 霧が...
 雨...
 雪...
 春...
 夏...
 秋...
 冬...



この山は...
 山頂に...
 雲が...
 霧が...
 雨...
 雪...
 春...
 夏...
 秋...
 冬...

